

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	その他小売の動 向を把握できる 者〔土産卸売〕 (従業員)	販売量の動き	・1～6月までの売上は前年比10～15%のマイナスで 推移していたが、7月に初めて前年比を1割程度上 回った。
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	お客様の様子	・客の様子をみると、東日本大震災直後に比べて、少 しずつ平常に戻っている。
		商店街（代表 者）	来客数の動き	・ダイレクトメールを発送すると、来店率が上がって いる。客の購買意欲が出てきている。
		百貨店（売場担 当）	競争相手の様子	・隣接する競合店は閉店セールを実施しており、前年 比155%で推移しており、当店に大きく影響してい る。ただ当店の売上は前年比98%であり、3か月前の 同97%と比べると若干良くなっており、健闘してい る。ちなみにその他2つの競合店は同102%、同106% で推移している。当店は食料品が前年比102～103%で 推移しており、堅調である。衣料品は婦人衣料、紳士 衣料共に苦戦していたが、3か月前の前年比より2～ 3%上がっている。
		百貨店（企画）	販売量の動き	・東日本大震災以降しばらくは、客の買い控えによ り、前年を大きく下回っていた。しかし、今月は中元 商戦や夏物クリアランスセールを中心に好調に推移し ており、売上も前年実績を確保している。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・来客数が増加しており、夏物の食材や鰻の蒲焼き 等、全ての販売量が前年を上回っている。
		スーパー（店 長）	単価の動き	・生鮮食料品の売上は前年比93%で推移しており、少 し厳しい状況である。牛乳等の日配品やデイリーの必 需商品の売行きが良く、全体的には前年比105%で推 移している。食品の放射能汚染問題があり、精肉の売 行きが厳しい状況で推移している。来客数は前年比 105%で推移している。ディスカウントする方向に経 営方針を変え少しは来客数が増えているが、利益面は 厳しい状況である。
		スーパー（店 長）	お客様の様子	・旅行用のトラベルバッグ、あるいはキャリーバッグ 等の売上が増加しており、前年の2割増しとなってい る。また関連商品の服飾雑貨関連も前年比107%と上 昇している。中元ギフトの単価は前年並みであるが、 点数がやや増えており、売上は前年比105%にまで回 復している。
		スーパー（総務 担当）	お客様の様子	・節電関連商品の売行きが好調である。今月になり衣 料品も前年を若干上回っている。
		スーパー（経理 担当）	販売量の動き	・東日本大震災以降の買い控え、自粛ムードから節 電、節約意識へと変化している。消費自体は月を追う ごとにわずかながら良くなっている。
		コンビニ（エリ ア担当・店長）	単価の動き	・天候が回復し、夏に向けて来客数も増え、客単価も 上がっている。東日本大震災の影響による買い控えが だんだん少なくなり、プラス1点の買物をする客が増 える。
		衣料品専門店 （店員）	来客数の動き	・夏のセールが始まり、県外客も含め来客は多い。購 買には依然慎重であるが、売上は前年より少し良い。 夏の旅行用や盆に出掛けるための服を探している客が 目立った。
		衣料品専門店 （総務担当）	お客様の様子	・衣料品の値段が50%オフになってから、客の動きは 非常に活発になっている。このことを良い方向に捉え るのか、デフレ傾向が強いと捉えるかは考え方である が、消費に対してある程度前向きになっているとみて いる。
		家電量販店（店 員）	販売量の動き	・7月24日のアナログ放送停波を受け、小型の地上デ ジタル放送対応テレビが良く出ている。ここ3か月間 をみると、エコポイント制度が終了してからずっと調 子が良く、今月は更に調子が良かったような状況であ る。
	乗用車販売店 （販売担当）	販売量の動き	・耐久消費財である自動車は、前年のエコカー購入補 助金制度終了の反動、東日本大震災による新車生産の 落ち込み等があり、これまでは前年よりかなり落ち込 んでいた。しかし、ここ2か月前程から生産が順調に なってきており、客の需要に応えられるようになり、 若干良くなっている。	

乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・7月の販売台数はほぼ計画通りである。東日本大震災でダメージを受けたメーカーの車両生産が予想以上に回復し、新車の需給バランスがとれてきた。中古車、サービス売上も堅調であり、単月利益は計画以上を確保することができる。	
その他専門店 [ガソリンスタンド] (統括)	お客様の様子	・地上デジタル放送への完全移行の月であり、給油に来た客から地上デジタル放送対応テレビやチューナーを購入した等の話をよく聞く。テレビに関連した商品の売上がよい印象である。燃料油の販売も梅雨明けが例年より早く、暑い毎日が続いているので、前年より販売が増加している。	
高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・3か月前の東日本大震災の影響をもろに受けた4月に比べると、7月はだいぶ回復している。株主総会等も通常であれば5月に開催されるところが6月に開催されている。また7月にもちよこちよこ会席、接待が増えている。ただし、来客数は回復しているものの客単価は低下傾向である。	
高級レストラン (専務)	来客数の動き	・当地は東日本大震災の影響から観光客が増えている。山口県、広島県や大阪府等からの客が多いようだ。ただし、いつまで続くか、まだまだ予断を許さない。	
その他飲食[居酒屋] (店長)	来客数の動き	・当地は九州新幹線全線開業の効果で、ここ3か月、来客数がとにかく増えている。それを受け入れるため、当地ではいろんなイベントが開催され、良くなっている。	
観光ホテル(総務担当)	来客数の動き	・宿泊、宴会共に東日本大震災の影響から脱した感がある。7、8月の夏休みは新幹線効果も期待したい。	
都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・各レストランの来客数は前年並みに回復し、宴会部門も前年実績を上回っている。	
通信会社(業務担当)	販売量の動き	・先月の新商品発売後、スマートフォンの人気が高まったが、今月も新商品発売があり、更に販売数が増えている。	
ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・九州新幹線全線開業の効果が出ている。会社のコンペ等による来場が多く、県外からも多くの客が来ており、非常に良い状況になっている。	
その他サービスの動向を把握できる者[介護サービス](管理担当)	来客数の動き	・猛暑の影響が懸念されたが、前年度と比較すると暑さも落ち着いており、客数も順調に増加傾向にある。	
変わらない	商店街(代表者)	販売量の動き	・7月の初めは良かったが、中旬に入るくらいから落ち込んだ状態となり、良し悪しは変わらない。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・ボーナス商戦が盛り上がり、地上デジタル放送完全移行の最終追い込みで家電の方に消費を取られ、商店街は厳しい状況である。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・客の様子をみると、東日本大震災後の自粛ムードは一息ついたようである。夏物商戦も今がピークであり、気温が高めで推移していることもあり、売上は例年並みとなっている。現状以上に購買意欲を後押しする要因は見当たらない。
	一般小売店[青果](店長)	単価の動き	・青果物は宮崎産の野菜がほとんどない。信州、北海道から入荷するため、必然的に単価も上がっている。また、宮崎産マンゴー、ギフト関係の相場がなかなか上がらない。
	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・最近のクリアランスセールと同じ傾向であるが、客は価格が安くなっても衝動買いをせず、本当に必要のない物は買わない傾向がある。購買に対して非常に慎重である。
	百貨店(総務担当)	販売量の動き	・夏物クリアランスは、特にメンズアパレルの動きが全体的に良くなく、レディースもテナントによって波があり、合計では前年実績に未達である。
	百貨店(営業担当)	単価の動き	・来客数は平日減少した分を金土日曜日、祝日でカバーしている。また、レジ客数は前年実績を確保し、買上単価はやや高くなっている。中旬は台風と雨の影響で来店、売上共に苦戦したが、ギフトや婦人肌着、ゆかた、ジュエリー等の催事が好調でカード売上が好調に推移している。食品の放射能汚染問題による風評被害で食品ギフトが一部伸び悩んでいる。

百貨店（営業担当）	お客様の様子	・今月の上旬はまずまずのペースできたが、中盤以降が非常に苦しくなっている。その1つの理由は、食品の放射能汚染問題であり、小売業にとって厳しい状況であった。今後の景気にも大きく影響してくる。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・夏物処分期を迎え、梅雨明けが前年より早かったため、前半は良かった。ただ必要な商品を購入したら、プラス1点を購入するといった動きにならない。結局は必要な商品の値下げを待っている状況である。
百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・7月は衣料品の全館クリアランスセールを実施するも、前年実績を下回って推移している。中元のギフトは前倒し特典で売上を先取りしたものの、後半失速している。来客数や商品単価も前年実績を大幅に下回っている。
スーパー（経営者）	販売量の動き	・先行きが不透明であるため、無駄な物は買わない傾向があり、買い控え傾向がある。
スーパー（店長）	お客様の様子	・食品の売上は相変わらず節約志向やデフレの傾向が続いている。ただ、衣料品においては節電対策によるクールビズ関連商品が好調に推移している。また旅行関係も一時に比べると持ち直している。
スーパー（店長）	お客様の様子	・食品の放射能汚染問題の影響が牛肉の販売に出ている。単価が高いために他の肉でカバーできないため、厳しい状況である。前半は暑さのせいで飲料を中心に夏物商材が順調だったが、中盤以降はやや低温傾向で盛夏関係の商品の動きも一服感が出ている。
スーパー（業務担当）	販売量の動き	・梅雨明け以降、食料品や衣料品、生活雑貨等ほとんどの分野において前年とほぼ同じ売上傾向になっている。ただ、悪天候や気温の一時的低下が発生すると、それに敏感に反応し、売上実績は前年比3～5%ほど低下する傾向がある。日用品が不安定なのは消費者が積極的に消費生活に臨めないためであるが、それが気候不順なのか景気の問題なのかは分からない。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数の前年割れが何年も続いており、今月も厳しい。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・梅雨明けが例年より早く、夏物商品の売行きが良い。また、客の節電意欲が重なり、売上が大きくアップしている。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・今年も地域振興券が発売され、先週末、商店街で発売関連イベントをしたが、客の出足は今一つであり、なかなか店の売上につながらない。また現在、道路拡張工事中で来街者は相変わらず少ない。
衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・セールが前倒しになった分、7月半ば以降、セール品の販売がだらだらと続いている。高額所得者は秋物を選んでいるが、全体的に値引品を選ぶ傾向が強い。
家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・売れ筋のテレビが在庫切れになり、最終の駆け込み需要に対応できなかった。
乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・来店客が多くなったが、修理に来る客が多い。
乗用車販売店（代表）	それ以外	・客の様子や販売動向等周りの状況のみで、良くなるような感じではない。
住関連専門店（店長）	販売量の動き	・今年は梅雨明けが早く、夏物商品が前倒しで売れており、今月単月でみると売上は良かった。
その他専門店 [コーヒー豆] （経営者）	販売量の動き	・前年度に比べると販売量はほぼ横ばいの状態である。特に夏場に入り、コーヒー業界では中元ギフト物がよく出ている。ただ、販売数、来客数は前年と同じ水準である。
ドラッグストア（部長）	お客様の様子	・客の様子をみると、購買意欲がない。
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] （総支配人）	来客数の動き	・来客数の前年比が3か月前と比較し、同様の伸び率にとどまっている。
一般レストラン（経営者）	競争相手の様子	・東日本大震災の影響で予約が少ない。また火山の影響でキャンセルが続いている。若干取り戻している感じはあったものの、実際、来客は少ない。他のホテルの状況を聞いても散々たるものである。
一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・学校が夏休みになっても、客が増えない。県外からの客も増えていない。
スナック（経営者）	来客数の動き	・相変わらず来客数が低レベルで推移している。また以前に比べると団体客が少なくなっている。

観光型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・披露宴や宿泊、レストラン等前年実績、予算を共に達成している。一般宴会も東日本大震災の影響が大分薄れている。梅雨明けが早かったせいかビアホール利用が過去最高を記録している。6月は大雨の影響で前年割れだったが、7月にその分を取り戻した。	
都市型ホテル (副支配人)	単価の動き	・客は多少増えているが、事前予約はなく、当日にフリーの客が非常に増えている。	
旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・順調に回復してきたが、ここに来てやや鈍くなっている。特に夏休みは、家族旅行を中心にやや悪い。	
タクシー運転手	来客数の動き	・昼間は客の動きが大変良く、先月から今月にかけてイベント等の面でかなり人が動いている。ただ夜の繁華街の動きが今一つである。	
タクシー運転手	お客様の様子	・今年はタクシーの利用には日によってむらがあり、夜は金曜日の夜だけ少し人通りが多い。	
通信会社(総務局)	販売量の動き	・東日本大震災以降、政府の震災対応に対する不信感や復興費用の捻出のための増税懸念等により、個人消費の低迷は今後も続く。	
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・東日本大震災後しばらくは、不況の話ばかりだったが、最近あまりそういう客の声は聞かなくなった。少しずつ、景気回復に向けて動いている。	
通信会社(企画担当)	販売量の動き	・通信回線のエリア拡大により販売は増加しているが、その他既存エリアでは販売の飽和感があり、販売数が伸びない。	
テーマパーク (職員)	来客数の動き	・夏休みに入り、予約数は一昨年並みの状況になりつつあるが、7月全体で見ると依然として横ばいの状況である。	
ゴルフ場(支配人)	来客数の動き	・梅雨が明け、猛暑が続いていたが、台風6号の襲来で気温が落ち着いた。客足は天候に応じて増減しているが、総じて前年並みである。シニアの来場回数が少しずつ減っており、夏場は特に顕著である。	
美容室(店長)	来客数の動き	・夏休みに入り、学生の来店は増えるが、総じて来客数が少ない。	
住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・良い物件には客がつく。今回7区画の土地建物住宅の分譲をしたが、場所が良かったのか即日完売した。需要は非常にあるが、一般的には景気は低迷している。	
やや悪くなっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・毎月の売上が少し悪くなっている。東日本大震災の影響かどうかは分からない。
	一般小売店 [茶](販売・事務)	販売量の動き	・中元時期であるが、例年に比べ予約が少なく単価も低い。夏場を乗り切るには、中元と初盆の返礼品をどれだけ受注できるかにかかっており、今年は厳しい状況である。売上は低迷している。
	百貨店(営業担当)	来客数の動き	・前年、当地は口蹄疫で大変苦しんだ。今年はその裏年で中元商戦に期待していたが、中元ギフトセンターの来客数前年比96%となり、全店の来客数の前年比を下回っている。非常に厳しい状況である。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・福島第一原子力発電所の問題後、消費は低迷していたが、それも一段落し戻ってきた。消費意欲が戻りつつあったが、今月の台風、食品の放射能汚染問題等、ここにきて若干厳しい状況にある。
	スーパー(売場担当)	お客様の様子	・来客数は変わらないが、客単価が下がっている。新店の動向は良いが、既存店は売上が下がっている。
	コンビニ(販売促進担当)	販売量の動き	・今月は長雨と台風により、量販店の売行きは悪かった。今月はパン類の値上げもあり、対象商品が平均税込価格126円から130円となった。量販店の売上はまあまあ良かったが、一般店が思うように動かないという状況である。
	住関連専門店 (経営者)	単価の動き	・東日本大震災の影響は、九州地区の置き家具の売上にはあまり影響はないようだ。大型店の輸入品の低価格商品に対して国産品のソファ等々の動きは鈍い。毎月のキャンペーンは順調であるが、店売の方は相変わらず客単価が低く、来店者も少ない。
	高級レストラン (支配人)	単価の動き	・客単価が著しく下がっている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・節電対策の影響か、出勤時間や退社時間がかかりずれている。特に退社時間が早まっており、客が飲みに出る時間が早くなり、帰る時間もまた早くなっている。そのため、タクシーの利用が減っており、全体的に売上が落ちている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・アナログ放送の停波により、テレビ等の買換えに金を使い、行楽地や夜の繁華街の人出が減っている。

	通信会社（管理担当）	それ以外	・資金繰りの厳しい状況が続いている。	
	美容室（店長）	来客数の動き	・節電対策の影響が出ており、景気は悪くなっている。	
	音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・夏休み期間のレッスンの入りが悪くなっている。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	販売量の動き	・東日本大震災以降、売上が減少し、猛暑や節電等により、人の動きも鈍くなっている。	
悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・今年は暑く、日照りが強く、商店街では空調設備がないため、暑い毎日の連続で30度以上の天気が続く。涼しいスーパーに客を取られるのが現状である。	
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	販売量の動き	・思いがけず土用丑の日に鰻が売れた。値段が高かったこともあり前年より入荷を控えていたら、足りなかった。事前に少し注文もあった。ただ丑の日以外は不調であった。	
	一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・3月の卒業式シーズン、母の日から7月まで毎年悪い時期であるが、東日本大震災の影響で自粛しているのか、今年は更に悪くなっている。これから先がかなり不安である。	
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・6月19日に高速道路料金引下げが終了し、週末の客の動きが一気に鈍化している。来客数の減少に加え、競合他社間による客争奪合戦がより一層激化しており、販売単価を下げた客の誘引策が売上の低下を招いている。	
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・東日本大震災の影響で九州地方でも人々の購買意欲が落ち込んでいる。地上デジタル放送への完全移行によりテレビがよく売れており、衣料品等他の分野へ影響している。	
企業動向関連	良く なっている やや良く なっている	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・エネルギー関連機械設備の受注が好調で、今年中の仕事が重なり、手一杯の状態である。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・毎年盆前の駆け込み受注があり、7月の売上指数は110%程度で推移しており、今年は受注案件が減っている。
		精密機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・先月の受注量は横ばいであったが、今月は受注が増えている。
		建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・まだ発注量は少ないが、3か月前と比較すると格段に良くなっている。官公庁の発注がこの第2四半期に入り、多くなっている。でもまだまだ少ないのが現状であり、ただ受注した業者をみれば偏っている。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・サプライチェーンの影響や消費自粛傾向の最悪期は過ぎている。
		金融業（営業）	取引先の様子	・東日本大震災の影響はほぼ払しょくされている。3か月前と比べて、ほとんどの業種で受注は明らかに増加している。製造業においては、中国向けが特に順調である。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・建設業を中心に、東日本大震災以降停滞していた仕事の受注が出始め、資金需要が発生している。受注の売上代金を返済引当とした借入金のニーズが増えている。
		金融業（得意先担当）	取引先の様子	・3月の東日本大震災以降、4～6月の売上は前年比で半分以下とする取引先が数多く見受けられた。その状況から考えると7月以降は良くなっている。
		新聞社（広告）（担当者）	受注量や販売量の動き	・東日本大震災による本社機能の移転で通販関係の新規広告主が発生する等、震災直後に比べて明るい材料は増えているが、いまだ震災前の水準に回復していない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・3か月前は東日本大震災の影響が大きかった時であるが、それから考えると相当良くなっている。ただ天候不順で雨が多かった関係でマイナスに響いた業種もあるが、雨がプラスになる業種も若干あるため、総じて変わらない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・受注量が増えている取引先が多くなっており、受注量の減少や苦戦をしているという企業の話聞くことが少なくなっている。
	その他サービス業〔物品リース〕（役員）	受注量や販売量の動き	・民間設備投資は半導体関連を始め一部に増産対応の動きがみられており、前年同期に比べて大幅な受注増加となっている。	

変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主要鶏肉のプロイラーは荷余り感が始めているが、われわれの取引先の冷凍食品メーカーは依然として引き合いが強い状態である。ただし、スーパーや居酒屋関連の動きは生食加工品を中心に落ち込みが大きく、未だ従来の数字に程遠いところである。本来の私たちに戻るのは秋口以降になる。
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・東日本大震災の影響は落ち着いたようであるが、需要は低迷している。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月も最悪だったが、来月は自動車関連の受注ができる見通しである。
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先の様子は今までの取扱商品が非常に厳しくなっている。相手先から採択されなければ仕事なくなるため、仕事の獲得に躍起になっている。新商品がなかなか開発できないので、ここしばらくは模索の状態が続くのではないかと大変苦慮している。なんとか現在の商品が相手先に認められ、受注が続くように祈るだけである。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・雑貨を中心に少し受注が増えており、入出庫が活発になっている。
	輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・荷物の動きは良くない。特に九州地区は例年、夏場は青果物が落ち込む時期になるため、荷物が減少する。夏物の季節商材は、猛暑の影響で若干動きはあるが、前年と変わりなく景気が上向く程ではない。
	金融業（従業員）	それ以外	・暑さの影響で平日は来街者が激減している。また夏のイベントも売上につながっていない。
やや悪くなっている	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・仕事の受注量はほとんど変わらず増えていない。
	繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・売上が下がっており、在庫を減らすのに必死で、新しい物や生産が生まれてこない。
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・預かっている貨物の荷動きが全体に悪くなっている。月末近くになっても動きは回復しない。特に食品では肉関係の関連商品が悪くなっている。
悪くなっている	金融業（営業職渉外係）	それ以外	・東日本大震災の復興、福島第一原子力発電所の問題、円高等の諸問題が山積しており、政局の混乱ばかり目につき、景気が急速に減速している。
	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・食肉関係、特に牛肉を中心に、販売は非常に厳しくなっている。食品の放射能汚染問題や風評被害から、今までないような牛肉、枝肉価格となっている。非常に厳しい状況である。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・商品が動かないために価格競争が激しく、また受注量が悪いうえに燃料代が上がり、7月の売上は前年比2割程度減少した。また中小企業緊急雇用安定助成金の休業補償や教育訓練を行っているが、それでも受注が追い付かない状態である。
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・全般的に半導体関連は不透明な状況を呈しており、各社揃って景気の動向を下方修正している。現在のところ非常に不透明感が強い。
	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・前回に比べ、企業は商売の切替えや新商品の開発へシフトしている。酒販売にとらわれず多様化しつつある。
雇用関連	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	受注価格や販売価格の動き	・市町村が委託業者へ発注する事業について、これまで人件費等は適正価格で積算されていたが、今年度になって、減額されて積算されている。場合によっては、半額以下の場合もある。前年度、ダンピングして受注された実績を踏まえてのことと推察される。
	－	－	－
良く なっている やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・人材派遣業で、百貨店や複合施設での短期販売の派遣が増えている。ただし、長期雇用は増えていないので、販売売上は伸びていても長期的に安定しているわけではない。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・飲食業からの注文が増えている。短期だけでなく、長期の求人も少しではあるが、増えている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・自動車や家電関連の製造業の求人が増加しており、それに伴う人材派遣の動きも活発になっている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・企業の採用意欲は高く、新規求職者数は前年同月とほぼ水準で推移している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当所における新規求人数は平成22年8月から連続で前年を上回って推移しており、改善している様子がみられる。

	学校 [大学] (就職支援業務)	求人数の動き	・求人数が現時点で前年比10%程度上回っている。
	学校 [専門学校] (就職担当)	求人数の動き	・採用企業に今までは最小限度の人数だけ採用するとの考えが強かったが、最近は最小限度プラスアルファのリクエストが出てきている。
変わらない	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・新規の事務員派遣の求人については、業務繁忙による増員等の理由での求人は少ない。
	求人情報誌製作 会社 (編集者)	採用者数の動き	・駅ビルのオープンに伴う影響が続いている。周辺企業でフリーターの採用が難しくなっている。全体的に人手不足感と賃金の高騰が原因である。
	職業安定所 (所 長)	求人数の動き	・依然として厳しい雇用情勢が続いているが、緩やかな景気の回復がうかがえる。ハローワークの利用者数をみると、本年7月は前年同月比7.9ポイント減少し、本年4月以降でも最も少ない利用者数となった。求職登録者数は依然としてパートを主体に増加している。一方、求人の状況は引き続き医療福祉、卸小売業を中心に増加傾向にある。
	職業安定所 (職 員)	求人数の動き	・求人動向は新規学卒求人の確保が喫緊の課題となっており、そのしわ寄せが一般求人の提出に影響する。求職者の減少幅は小さく、有効求職者数は高止まりの状況にある。有効求人倍率も足踏み状態にあり、短期的に雇用情勢が改善する要因はない。
	職業安定所 (職 員)	求職者数の動き	・求人数の増加傾向に変化はないが、求職者数も増加傾向にあるため、有効求人倍率の改善が鈍い。
	民間職業紹介機 関 (社員)	求人数の動き	・年度末が一段落し、単発、短期の依頼が落ち着いている。長期依頼案件数も伸びてこない。九州に本社移転の話はあるものの、要員も同時に異動のため、派遣需要としては上がってきていない。
やや悪く なっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人依頼数が少し減少気味である。
	新聞社 [求人広 告] (担当者)	周辺企業の様子	・東日本大震災の影響がないとは言えないが、活発に消費する傾向にないようだ。夏休みに入り、九州新幹線全線開業等の影響で一部の業種は元気であるが、その他の観光地は厳しい。夏場の観光産業の落ち込みが懸念される。
	民間職業紹介機 関 (支店長)	求人数の動き	・8、9月の夏季は例年人材需要が一服するが、全体的に新規需要、増員等が少ない。
悪く なっている	—	—	—